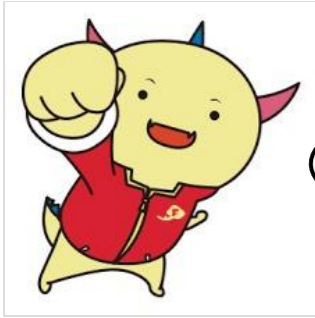


あのね、

福井市四ツ井 2-8-1
TEL 0776-53-6570
FAX 0776-53-6576
http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo-ryouiku/



福井しあわせ元気大会 選手インタビュー！！

<上野倅生くん (高校3年生) >

競技名/賞：バタフライ 50m/金 自由形/銀



競技を始めたきっかけ：自分が泳げるようになるために始めました。
障スポに参加して感じたこと：今までの大会の中で自己ベストではあったのですが、もう少しで大会新だったのになれず、残念でした。去年の障スポと比べると2競技とも4秒UPしていたので嬉しかったです。
苦労した点：帰ってからすぐに練習に行かなければいけなかったのが、家でゆっくりできなかった点です。
将来の夢：今は学生なので水泳の練習をたくさんできました。しかし、社会人になると時間も限られてくるので、水泳を続けていけるか不安です。もし、ずっと続けていくのならもっと上の大会を目指していきたいと思っています。

親御さんのサポート

・学校などから帰ってきて、軽食を食べてすぐに練習に出発しなければいけませんでした。また、練習から帰ってきて夕食、風呂、洗濯と寝るのが夜中を超えることがあり大変でしたが、少しでも子どもの支えになりたいとの思いで頑張りました。

<塩谷紀子さん (高校1年生) >

競技名/賞：陸上 50m走/金 (大会新) ソフトボール投げ/金

競技を始めたきっかけ：陸上もソフトボール投げも、中学3年生の時、学校の先生に県のスポーツ大会に出ないかと誘われたからです。
障スポに参加して感じたこと：競技前は緊張でガクガクしましたが、観客席に先生を見つけてからは安心して落ち着くことができました。ベストタイムで1位がとれ、とても嬉しかったです。
苦労した点：50m走は、車椅子を右手で漕ぐクセがあり左のほうに曲がってしまうので、ラインを踏んで失格にならないように、まっすぐ走るようにするのが難しかったです。ソフトボールは、練習を始めた当初1か月は、肩を痛めてしまい辛かったです。
将来の夢：陸上は一旦終了し、卓球バレーに打ち込んでいきたいと思っています。



親御さんのサポート

・陸上チームの送迎を行いました。また、大会前に娘が風邪をひかないように気を配りました。

「子育てファイルふくいっ子」をご存知ですか？

「子育てファイルふくいっ子」は、お子さんに関わるそれぞれの機関において、各成長の段階ごとに基礎調査票や評価シートをつけて、子どもの特徴を客観的・総合的に把握することでひとりひとりに合った支援につなげる福井県方式の支援ツールとして作成されました。

当センターでも、小児科受診時やつばさ利用開始時に、お子さんに関する情報（プロフィール、児童発達支援計画書、診断書、リハビリや検査の評価表、アセスメントシートなど）を随時綴じていただくファイル「子育てファイルふくいっ子」の作成と活用を保護者の皆様にお勧めしています。このファイルを必要に応じて療育機関や相談支援事業所、こども（幼稚・保育）園、学校などにお持ちいただき、お子さんに関わる関係者が情報共有するツールとして、積極的にご活用ください。なお、支援者が直接次の支援者へ引き継ぐ場合は、個人情報保護関係法令の通り、必ず保護者の同意を得たものについて引き継ぐことになっています。

また、ファイルの活用による支援が必要なくなった場合には、生育・発達の記録としてご家庭で保管してください。

その後、必要に応じてこのファイルを提示することによって、本人の特性に応じた配慮を依頼できる場面が発生する可能性があります。また、幼少の頃に受けた支援の内容や本人の状況について、大人になってから記録が必要となる場合もありますので大切に保管しましょう。福井県では、子どもの成長に伴うライフステージの移行（乳幼児→保育所・幼稚園→小・中学校→高等学校→就労期）の際に、このファイルで子どもの状況や支援内容を引き継ぐことで、お子さんへの途切れない支援を目指していきます。



平成 30 年度 療育研修会報告

第2回 平成30年7月7日(土)

『青年期以降に幸せに暮らすための障がい児ライフステージごとの関わ

講師：鈴木 明子先生

(野のすみれクリニック リハビリテーション科院長 日本リハビリテーション医学会専門医)

リハビリテーション科の専門医としての経験と、自閉症児を育てる親としての経験から、特性のある子の子育てや支援に大切なことを具体例を通してわかりやすくお話していただきました。参加された方からは、「将来を見据えての子育ての大切さを教えていただけました。」や、「障害のあるお子さんを育てている先生のお話ということで、学ぶこと、共感できることが沢山あり、とても参考になった。」等の感想をいただき、あたたかい、一生懸命な先生の姿に心うたれる研修会となりました。

(医療課 福井)

第3回 平成30年12月2日(日)

『重症心身障害のある子どもの健康と活動の支援について』～和らぎ苑と大阪府の取り組み～

講師：榎勢 道彦先生

(四天王寺和らぎ苑 医療技術部療法士室リハビリ長 兼 在宅支援部障がい児通所部長)

重症心身障害のある子どもたちの支援について本人中心の支援のヒント、本人・家族の想いを支える感性や小さな変化に気付く感性を養う事の大切さを教えていただきました。また、現場の経験をまじえ、丁寧に説明していただきました。参加者の方からは、「勇気をもらえた」「わが子を社会に託す6つの下支援すごく心に響いた」「関わり方について改めて考える機会となった」等の感想をいただき、今後の療育や施設等での支援に役立つ研修会となりました。

(通園指導課 大川)



